

発掘ニュース

第 27 号

平成 2 年 5 月 11 日

発行 財団いわき市教育文化事業団
法人 TEL 0246(23)9348

おおはた 大畠 A・F 遺跡

いわき市泉町下川字大畠にある大畠A遺跡と大畠F遺跡は、ゴルフ場建設に伴って破壊されることになり、昨年12月から発掘調査を実施しています。

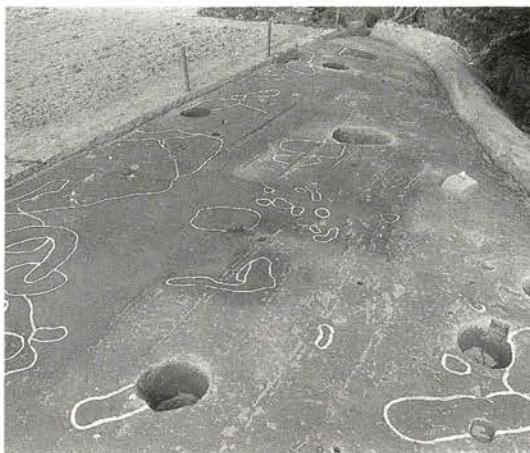
本遺跡は、海拔50m前後の大畠台地の最も高い所に立地し、東にはウミウの棲息地として知られる照島が望める景勝の地にあたります。この台地一帯は旧石器時代から平安時代にわたる各時代の遺跡が群在し、台地の斜面のあちこちには横穴と呼ばれる古墳時代のお墓もつくられています。

今回の発掘調査では、F遺跡から土坑やピットと縄文時代早期土器をすべてた沢がみつかり、A遺跡からは木炭を焼いた土坑や弥生時代の住居跡が検出されました。この他に、海のそばの台地斜面から横穴4基が新たに発見されました。この中の最も大きな2号横穴からは、土師器の杯と小刀が入口付近に置かれた状態で、また遺体を葬った玄室から人骨と歯が発見されました。



① 照島上空から見た大畠遺跡群

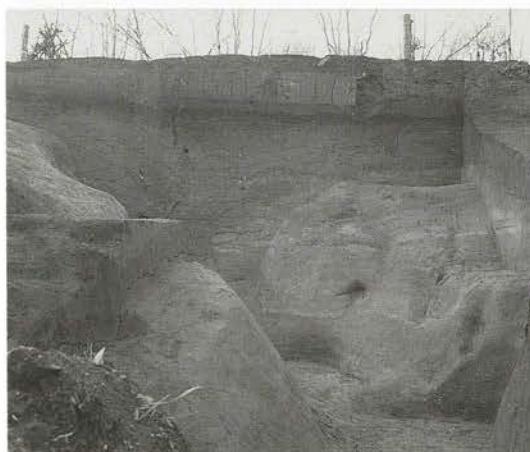
発見された遺構



② 遺構確認面



③ 焼けた土坑



④ 遺物包含層

遺構とは、昔の人々が大地に残した生活跡のことです。いろいろな種類のものがありますが、竪穴住居跡・土坑・溝・おとし穴などがその代表といえます。

今回発見された遺構は、竪穴住居跡1棟・土坑72基・溝跡2条・ピット54基・遺物包含層1箇所です。②は、これらの遺構が確認された状況を撮影したもので白線で囲まれたところが遺構です。いくつも重なり合い長い期間この大畠台地に人が住んでいたことがわかります。③は、床面に炭化した木片が横たわり、壁の一部が赤く焼けた土坑です。おそらく木炭を焼いた跡と考えられます。④は、長さ5m以上、幅3m、深さ4mにわたって地山が落ち込んでいたところで、多量の土器や石器が出土地しています。土器は接合により完形品になるものが多く、まとめて捨てられた可能性があります。この他にもいろいろなゴミが捨てられたのでしょうか、残念ながら残っていませんでした。

出土した遺物

大畠A・F遺跡から出土した遺物は、縄文時代早・前・中期の土器、弥生時代後期土器、古墳時代から奈良・平安時代にかけての土器や旧石器時代から弥生時代にかけての石器が出土しています。

縄文時代早・前期の土器と石器はほとんどがF遺跡の遺物包含層から出土しています。上層では早期末から前期（6000～7000年前）ごろの土器が多いのですが、下層は早期後半（8000年前）ごろの野島式と称される土器とそれに伴う石器が出土します。この頃の土器は、底部が尖った尖底の深鉢形で、貝殻を使って表面を整形し、細い粘土紐で幾何学的な文様を表現しています。石器は、石を割ったり磨いたりして作った道具で、弓矢の先に着ける鏃や木を切るおの斧などがあります。この包含層からも石鏃や擦石が出土しています。

A遺跡では、弥生時代後期の壺や古墳時代の土師器甕、奈良時代の土師器杯、平安時代の須恵器甕・高台付杯などが出土しています。



⑤ 沢から出土した縄文土器



⑥ 沢から出土した石器



⑦ 古墳時代の土師器甕

大畠横穴群



⑧ 横穴群全景



⑨ 2号横穴出土土師器



⑩ 太平洋を望む

横穴とは、古墳時代（今からおよそ1350年前）に作られたお墓です。丘陵の斜面に横へ穴を掘ることからこのように呼ばれています。

遺跡のある大畠台地の斜面には数多くの横穴の存在が確かめられ、お墓のアパートといった感じです。

今回調査した4基の横穴（⑧）はゴルフ場開発に伴って発見されました。このなかで2号横穴と名付けたものは、長さ6m・幅2mと最も大きく人骨や歯の一部と共に鉄製の小刀や土師器（⑨）が出土しています。また、横穴の入口付近には、人頭大の石がゴロゴロしていて入口をふさいだものとわかりました。

この横穴から外を眺めると（⑩）そこには太平洋に照島が浮かび上がり、古代人がこの素晴らしい景観をバックに死者との別れを惜しむすがたをかいまみることができます。

あなたも古代の息吹を感じてみませんか!!

現在、（財）いわき市教育文化事業団では、文化財発掘調査作業員を募集しています。興味のある方は連絡先までお知らせ下さい。

連絡先 教育文化事業団 29-0391 大畠事務所 56-2210

とじておきましょう